

平成24年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4	-	1	-	36
事務事業名	徳島東部地域観光振興事業 (徳島東部定住自立圏共生ビジョン連携事業)				担当課係	産業振興課			
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」			記入担当者				
	中項目	②産業の振興			内線等				
	小項目	4. 農水工商業の連携による地域資源の発掘や活用、魅力発信の強化			E-mail				
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業			
事業予算費目	款	7	商工費	項	1	商工費			
	目	4	観光費	事業	5	徳島東部地域観光振興事業			
開始年度	平成	23	年度	根拠法令・要綱等					

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 小松島市民および徳島東部定住自立圏域住民ならびに観光者
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) JR南小松島駅舎内に開設した観光案内所での観光案内や観光ガイドブックの作製、配布、マスコットキャラクターを生かした催事などへの参加、また、本市特産の水産資源を活用した取り組みなどにより本市と連携する圏域での交流と定住の促進を図るとともに観光客の増加を目指す。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 徳島東部地域定住自立圏構想に基づき、連携市町村で観光分野を広く周知するため、観光案内所の開設や観光ボランティアガイドの養成などを商工会議所に委託や補助を行って運営している。また、本市の豊富な水産資源や農産物を生かし、これを観光や定住促進に繋げるための取り組みとしてPRや販売などのイベントを定期的実施している。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 本格的な人口減少社会の到来が迫るなか、大都市圏への人口の流出に歯止めをかけ、地方への人の流れを創出する必要がある。そのようななかで、徳島東部圏域が強い結びつきのもと連携し魅力ある圏域の創造を目指すことを目標に観光振興事業に取り組むこととなった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	利用・参加者数		ボランティアガイド養成講座受講者数、海鮮朝市、うまいもんまつり来場者数、観光案内所利用者数					
	単位		H23	H24	H25	H26	将来目標 (年度：平成)	
人	目標		7,030	10,830	10,800	10,800	12,000 平成27	事業に対する圏域内外の来市者数
	実績		8,030	8,530				
	達成度		114.2%	85.0%				

活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H23	H24	H25	H26	指標の説明
	観光案内所利用者数		人	計画	300	1,800		
実績				300	1,800			
観光ボランティアガイド養成講座受講者数		人	計画	30	30			(計画)は目標 (実績)は実績人数
			実績	30	30			
海鮮朝市来場者数		人	計画	1,000	2,000			(計画)は目標 (実績)は公式発表人数
			実績	1,000	1,500			
うまいもん祭り来場者数		人	計画	6,000	8,000			(計画)は目標 (実績)は公式発表人数
			実績	7,000	7,000			

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

全体コスト(円)	関連事業費			23年度決算	24年度決算	25年度決算	24年度予算
		A	直接事業費		7,070,458	4,197,832	0
財源内訳	内訳	財源	国県支出金	0	0		
			地方債	0	0		
			利用者負担	0	0		
			一般財源	7,070,458	4,197,832		
B	人件費	①×②	531,358	1,339,339	0		
		職員平均人件費①	2,656,792	4,464,464			
		従事した割合②/人	0.20	0.30			
A + B			7,601,816	5,537,171	0		
単位コスト	活動指標の説明		観光振興事業への参加者および来場者数 8,030人	観光振興事業への参加者および来場者数 8,530人			備考
	活動指標 1 単位当たりコスト		947	649			平成23年4月1日現在 人口41,204人 平成24年4月1日現在 人口40,876人
	市民一人あたりのコスト		184	135			

■事業を取り巻く環境

	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測)
国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	徳島東部定住自立圏構想の取り組みにおいて実施する事業として、連携事業の終期は平成27年度としている。連携事業終了後において本市が事業継続するに当たり、事業推進のための手法を検討することが必要となるほか、事業継続の可否についても精査が必要となる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 徳島東部圏域が一体となって観光振興事業に取り組むことで、県内外に対する観光PRの充実化やイベントなどが頻繁に催され、観光関連事業に携わる業者をはじめ市民などの期待は大きい。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	県外の観光客はもとより県内、市内の住民も県域内の観光資源について認知度の低いものも多い。圏域には自然や歴史が残る観光資源や豊富な食資源があり、これらを活用して観光振興を実施することは、観光産業の振興や市民の豊かな生活を支えるうえでその必要性は高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	観光振興事業は、自治体や商工会議所、観光協会やNPOなどと一体となって事業に取り組むべきものであるが、徳島東部地域の市町村における連携事業としての取り組みであるため、市が率先して事業を推進する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	本市が取り組む観光振興事業において、関連する各団体などに委託や補助を行っており効率的である。しかしその一方で事業の成果を確認しながら事業内容の精査をする必要もある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	本市にはホテルなどの宿泊施設が他の地域に比べて少なく、観光産業で最も有効である「滞在型観光」には不利な地域である。また、集客できる観光施設も少なく、本市の資源を生かした観光振興事業への取り組みは急務である。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	JR南小松島駅舎内の観光案内所での案内業務や観光パンフレット類の充実に伴い、観光者や市民等に有効に利用いただいている。また一方では、事業の手法などの再考が求められる事業もあり、他にはない魅力づくりや特徴づくりが必要である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	現在は徳島東部圏域の市町村との緊密な連携により観光振興を図っているが、事業終了年の平成27年度以降においてもその取り組みが図れるか疑問であり、本市としても観光振興事業の積極的な取り組みが継続できるよう、連携事業終了後の市の方針を検討しておく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評 価	2	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定 評価点 72 2	判定に至った理由 本市の観光資源について、徳島東部圏域内市町村が一体となって振興に取り組むことでその認知度は高まりつつある。また、周知度、認知度などが十分でない事業については、その手法等を見直す必要がある。
		2 現状のまま継続する	60～79点		
		3 改善・効率化し継続	50～59点		
		4 見直しの上縮小する	40～49点		
		5 終期設定し終了	30～39点		
		6 休 止	20～29点		
		7 廃 止	19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】	

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評 価	2	1 拡 充 す る	判定説明 本市および周辺市町村が一体となった観光振興事業は観光者ニーズに対応した取り組みとして有効であるが、これらの事業が定住促進や観光者の増加に繋がるといった手法をさらに検討しつつ事業を継続する。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	